

学習内容報告書フォーマット

学校名	福島県南会津郡只見町立朝日小学校
授業者	目黒 貴子

1. 単元計画

1-1. 単元名

たのしい あき いっぱい

1-2. 学年

第1学年

1-3. 教科

生活科

1-4. 単元の概要

秋は花が枯れて種ができたり、木の葉の色が変わったり、実がなって枝から実が落ちたりする。朝夕の気温も急に低くなり、寒さを体感し、夏との違いを実感することもできる。このようなことから、「秋探し」は季節の変化に気づかせ、自然への関心を高め、季節の移り変わりを感じさせるのに適した題材である。実際に校庭で秋探しをしたり、枯れ葉や木の実で造形遊びをしたりして自然遊びの楽しさを味わわせることができるようにする。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元のねらい

学習指導要領（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること」に深く関わっている。

実際に校庭で秋探しをしたり、枯れ葉や木の実で造形遊びをしたりして自然遊びの楽しさを味わわせることもできるようにする。

（1）児童の実態

本学級の児童は、男子3名、女子4名の計7名で、児童は小学校に入学して半年が過ぎ、徐々に学校生活にも慣れ、毎日元気に学校生活を送っている。

生活科の学習に関しては、朝顔の水やりや虫の世話などに興味を持って取り組んでいる。また、朝の登校時に珍しい草花や虫を見つけては学校に持ってきたりしている。

春から夏にかけては、休み時間にも校庭に出て遊具遊びをしたり虫取りをしたりして遊んでいた。季節が夏から秋に変わり、校庭の樹木にも変化が見られ、児童は学校の敷地内で栗を拾ったり、クルミを見つけていたりしている。この恵まれた自然を生かして楽しい秋をたくさん見つけさせていきたい。

（2）指導観

本単元の前半では、公園や校庭、ブナ林などで遊んだり自然を観察したりする中で様々な秋を見つけさせ、これまでに学んできた春や夏と比較して季節の変化に気づかせるようにする。特に、校庭を散策する際には、山の案内人を講師に依頼し、様々な植物について教えていただくようにする。

単元の中盤では、児童が協力して育ててきたサツマイモや枝豆、カボチャを収穫し、実りの秋の喜びを味わわせるとともに、それらを利用してハロウィン用のランタン作りをしたり、枝豆で打ち豆作りをしたりする。このことを通して、季節の行事に主体的に関わり、郷土の伝統的な食べ物について体験を通して学ぶことができるようにする。

単元の後半では、秋の自然物を使っておもちゃ作りをさせるとともに、朝日保育所の園児との交流会を設定し、その中で各自が作ったおもちゃも使って楽しむことができるようにする。

本時は、前半の学習内容に含まれる。春や夏の公園や校庭の様子と今の様子とを比較して、夏と秋の違い

いに気づかせるとともに、秋の実りの1つとして栃の実を取り上げ、ゲストティーチャーに昔から伝わっている栃の実の食べ方を教えていただくことで、地域のよさに触れる機会にもしたい。そのような意味で、本校の研究テーマ「つながりの中で『只見愛』を育みながら、学び続ける子どもの育成」に直結する単元であると考えている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ 本時では、夏・秋の校庭の写真を提示し、季節の変化に気づかせ、児童が見つけた秋をタブレット端末で撮影したものを使用したり、実物を提示したりすることで見つけた物をより明確にする。

＜問題を発見する力・解決する力＞

- ・ 樹木の葉の色や形、実のつき方などをキーワードにすることで、山の案内人から教えていただいたことを想起させ、話し合い活動を深める。

＜話し合いを通じて自分の考えを高める力（コラボレーション力）＞

1-7. 単元の展開（全25時間）

次	時	主な学習活動	評価（評価領域）＜土台となる資質・能力＞
1	1 2	○ 公園で遊んだり、周りの様子を観察したりしながら、夏の公園の自然の様子との違いに気づく。（2）	下福井農村公園に行き、夏と比べて周りの様子の変化に気づくことができる。 見つけた葉や木の実などをタブレット端末で写真を撮ることができる。（知識及び技能） ＜ICTスキルや情報リテラシーの向上＞
2	3 4 5	○ 校庭で虫や木の実を拾う。（2） ○ 夏の校庭と秋の校庭の自然の様子から違いに気づく。 （本時）（1）	秋の校庭の自然の様子と夏の校庭の自然の様子と違いに気づくことができる。（知識及び技能） ＜ICTスキルや情報リテラシーの向上＞ 色や形、においの変化にも気づくことができる （知識及び技能） ＜振り返りから次に学ぶべきことを探す適応的学習能力＞
3	6 7 8 9 10 11	○ 檜戸のブナ林で遊んだり木の実を拾ったりして森の様子を観察する。 ○ 拾ってきた木の実や枝などを使って、手作りの飾りものを作る（4）	色や形、においなど五感を働かせながら秋の森の様子を知る。（知識及び技能） 公園や校庭、檜戸のブナ林で拾った葉や実を使って飾り物をつくることができる。（知識及び技能） ＜振り返りから次に学ぶべきことを探す適応的学習能力＞
4	12	○ 秋のことを伝え合う。（1）	秋の自然と関わったことを振り返り、夏の遊びと秋の遊びを比べ、季節によって生活の様子が変わることに気づき、季節を生かして遊ぶことに楽しさを感じてこれからも季節の遊びをたのしもうとすることができるようにする。 ＜知識及び技能＞＜プレゼンテーション力＞

5	<p>13 ・畑で育てているサツマイモや枝豆、</p> <p>14 カボチャの収穫をする。 (1)</p> <p>15 ・収穫したカボチャでハロウィン用の</p> <p>16 ランタン作りをする。 (2)</p> <p>17 ・収穫した枝豆で打ち豆作りをする。</p> <p>(2)</p>	<p>畑で育てたサツマイモや枝豆、カボチャを収穫し、カボチャランタン作りをすることができる。枝豆で打ち豆を作ることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p><イノベーション力></p>
6	<p>18 ・秋の自然物を使って、おもちゃ作り</p> <p>19 をつくる。 (4)</p> <p>20</p> <p>21 朝日保育所の年長組と交流する準備を</p> <p>22 する。 (2)</p> <p>23</p>	<p>拾ってきた葉や枝、木の実などでおもちゃを作ることができる。</p> <p>交流のための会の進め方や内容を決めることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)<プレゼンテーション力></p>
7	<p>24 ・朝日保育所の年長組と交流して、自</p> <p>25 分で作ったおもちゃでいっしょに遊ん</p> <p>だり学校のことを教えたりする。(2)</p>	<p>年長組といっしょに自分の作ったおもちゃで遊んだり学校のことを教えたりすることができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p><プレゼンテーション力></p>



2. 学習活動の実際

2-1 単元における位置づけ

単元 2 5 時間中の 5 時間目

2-2 本時の目標

夏と秋の校庭の自然の様子を比較して、季節の変化や自然の豊かさに気づくことができる。

(思考力・判断力・表現力等) <問題を発見する力・解決する力>

2-3 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 これまでの学習内容を想起する。</p> <p>(1) 朝顔の写真を見る。</p> <p>(2) 夏の校庭の写真を見る。</p>   <p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて なつとあきのちがいはなにか</div> <p>3 校庭で見つけた秋を発表する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱがおちていた ・葉っぱの色がちがう ・木の葉が少ない ・実がいっぱい落ちている。 ・どんぐりが落ちていた ・まつぼっくりがあった ・くるみ ・栃の実 ・くり など 	<p>○ 朝顔の写真を見せ、種を蒔いてから花が咲き、種になったことを想起させて、時間の経過とともに自然が変化していくことを確認させる。</p> <p>○ 春と夏の校庭の写真を見せ、春から夏に季節が変わるとどこがどのように変わったかを思い出させる。このことを通して、季節の移り変わりによる様子の変化に着目させ、本時のめあてを設定する。</p> <p>○ 学習のめあてを確認する。</p> <p>○ 児童が撮影した写真をプリントしておき、それを用いて一人一人の児童に、見つけた秋を発表させる。</p> <p style="text-align: center;">【見える化・ライブレコーディング】の活用</p> <p>○ 児童が見つけたものに対して、色、形、においをキーワードに夏と秋を比較し、違いについて問い返していくようにする。</p> <p>○ 児童が見つけたものは、すべて称賛する。</p> 

<p>4 栃の実について 知る。</p> <p>(1) 形・・・殻付き (2) 色・・・茶色 (3) 葉の数・・・5枚葉 (4) 食べ方・・・粉</p> <p>ゲストティーチャーからの話を聞く。 (ビデオ視聴)</p> <p>5 本時の感想を発表する。</p>	<p>○ 栃の花の写真を提示し興味を持たせる。 ○ 実際に実物を使って特徴を捉えさせる。 ○ 栃餅を例にして、栃の実をどのようにして食べられるようにしているかを知らせる。</p> <p>【見える化・ライブレコーディング】の活用</p> <p>◇ 夏と秋の自然の変化に気づくことができたか。 (話し合いの様子やビデオ視聴)</p> <p>＜問題を発見・解決する力＞</p> <p>○感想を聞く。</p>
--	--

3, 今回の活動の自己評価

- 夏にも同じ下福井農村公園を訪れて遊具で遊んだり、虫を捕ったり、草花で遊んだりした。この経験が生きて、今回の訪問で夏と比較して周囲の様子の変化に気づくことができた。
- タブレット端末を一人1台持たせたことで、秋を見つけて写真に収めようと夢中になって活動した。また、収めた写真をその場で見せ合うことで、さらに秋を探そうとする意欲につながった。
- 栃餅を例にして、栃の実を食べられるようにするための工夫やその手間について教えていただき、児童もその大変さを理解することができた。また、ビデオを利用したために、5分間という短い時間の中で簡潔に指導していただくことができてよかった。

4, 今後の課題

- 最新の写真を使用するため授業の前日に秋の写真を撮影したが、天候が雨模様だったため、晴天時に撮った夏の写真とは、目的外の様々な面での違いがでてしまった。さらに教材研究を深め、よりよい授業作りに取り組んでいきたい。

5, 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 単元の前半では、公園や校庭で遊んだり、自然を観察したりする中で様々な秋を見つけさせ、これまでに学んできた春や夏と比較して季節の変化に気づかせることが大切である。また、児童が栽培してきたサツマイモ、枝豆、カボチャを収穫し、秋の実りを体験させたり、採集した秋の自然物を使ったおもちゃづくりを行わせたりして、収穫の喜びや造形遊びを通し自然遊びの楽しさを味あわせることが大切であると考える。